



筑波大学大学院 自然保護寄附講座

筑波大学は、個人の篤志家からの寄附により、大学院生を対象とした寄附講座（サーティフィケートプログラム）を、平成26年度から5年間にわたり開講します。この寄附講座では、自然と文化にまたがる学際的な知識と、国際的な経験をもとに、自然保護に関する国際機関や国内機関、国際援助機関などで活躍する人材を育成することを目指しています。



対象者

筑波大学に在籍する大学院生から選抜

修了要件

自然保護寄附講座の授業10単位、実習・インターンシップ5単位合計15単位以上を取得すること

修了証

必要な単位を取得した大学院生には筑波大学より修了証（サーティフィケート）を授与する



【Credits & Copyright】

筑波大学

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学共同研究棟 A202

筑波大学大学院 自然保護寄附講座事務局

電話：(029) 853-6344

FAX：(029) 853-7099

Design：情報設計 info-architects.jp

<http://www.conservation.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学

University of Tsukuba

筑波大学



筑波大学
University of Tsukuba

自然保護寄附講座

Certificate Programme on Nature Conservation

授業とプレゼン

日本語と英語による授業では、生物多様性の保全や自然保護に関する国際条約などに関する最新の情報に基づく講義を行います。履修者は積極的に授業に参加し、日本語または英語によるプレゼンテーションを通じて意見交換することが重要です。英語の授業では、海外より国際機関で活躍するゲストをお招きし、英語でディスカッションを行う授業も用意されています。



授業科目

【授業】 ※数値は単位数を示します。 ※(E) マークは英語での授業となります。

自然保護論 / 1 吉田 正人	Role of International Organizations and NGOs (E) / 1 吉田 正人、稲葉 信子
地球環境論 / 1 指田 勝男、他	International Cooperation for Environment (E) / 1 吉田 正人、稲葉 信子
保護地域管理論 / 1 伊藤 太一	Citizens' Participation for Environment (E) / 1 吉田 正人、稲葉 信子
景観・緑地保全論 / 1 伊藤 弘、黒田 乃生	Environment and Sustainability (E) / 1 吉田 正人、稲葉 信子
自然遺産論 / 1 吉田 正人	自然保護行政論 / 1 非常勤講師 (渡邊 綱男)
生物多様性論 / 1 佐伯 いく代	自然保護法制度 / 1 吉田 正人、および外部講師
Wildlife Management (E) / 1 佐方 啓介	環境影響評価 / 1 吉田 正人、および外部講師
モニタリング調査技術 / 1 和田 茂樹、武 正憲	生態系の保全と復元 / 1 佐伯 いく代、および外部講師
植生学 / 1 上條 隆志、川田 清和、清野 達之	自然保護教育と環境教育 / 1 佐伯 いく代、および外部講師
Vegetation Science (E) / 1 上條 隆志、川田 清和、清野 達之	自然保護セミナー / 1 佐伯 いく代、佐方 啓介、和田 茂樹、武 正憲
Access and Benefit Sharing of Genetic Biodiversity (E) / 2 渡邊 和男、Bidadi Hanijeh、河瀬 眞琴、小口 太一	インタープリテーションとエコツーリズム / 1 武 正憲
International Conventions for Environment (E) / 1 非常勤講師 (堀江 正彦ほか)	サイエンティフィック・ジャーナリズム / 1 和田 洋
ジオパーク論 / 1 久田 健一郎、佐伯 いく代	自然保護特別講義 I・II / 各 1 武 正憲・吉田 正人

【実習】

陸域フィールド実習 I・II / 各 1 上條 隆志、佐伯 いく代
海域フィールド実習 / 2 和田 茂樹、武 正憲
自然遺産実習 / 2 吉田 正人、佐伯 いく代
Project Practice in Natural Heritage (E) / 2 吉田 正人、佐方 啓介
保護地域・野生生物管理実習 I・II / 各 1 佐方 啓介、武 正憲、伊藤 太一
自然保護特別実習 I / 2 吉田 正人、稲葉 信子
自然保護特別実習 II / 2 佐伯 いく代
海外自然保護特別研究 / 2 吉田 正人、佐方 啓介

【インターンシップ】

短期インターンシップ / 1 佐方 啓介、佐伯 いく代
中期インターンシップ / 2 佐方 啓介、佐伯 いく代
長期インターンシップ / 3 佐方 啓介、佐伯 いく代
海外インターンシップ / 5 吉田 正人、佐方 啓介

教員紹介

 伊藤 太一 Taiichi ITO 生命環境科学研究科 教授 国際地球技術開発科学専攻	 伊藤 弘 Hiroshi ITO 人間総合科学研究科 准教授 世界遺産専攻	 稲葉 信子 Nobuko INABA 人間総合科学研究科 教授 世界遺産専攻	 江面 浩 Hiroshi EDURA 生命環境科学研究科 教授 生物圏資源科学専攻	 上條 隆志 Takashi KAMUYO 生命環境科学研究科 教授 生物圏資源科学専攻	 黒田 乃生 Nobu KURODA 人間総合科学研究科 教授 世界遺産専攻	 佐伯 いく代 Ikuyo SAEKI 人間総合科学研究科 准教授 世界遺産専攻	 佐方 啓介 Keisuke SAKATA 生命環境科学研究科 准教授 国際地球技術開発科学専攻	 指田 勝男 Katsuo SASHIDA 生命環境科学研究科 教授 地球進化科学専攻	 武 正憲 Masanori TAKE 人間総合科学研究科 助教 世界遺産専攻	 久田 健一郎 Ken-ichiro HISADA 生命環境科学研究科 教授 地球進化科学専攻	 沼田 治 Osamu NUMATA 生命環境科学研究科 教授 生物科学専攻	 吉田 正人 Masahito YOSHIDA 人間総合科学研究科 教授 世界遺産専攻	 和田 茂樹 Shigeki WADA 生命環境科学研究科 助教 生物科学専攻	 和田 洋 Hiroshi WADA 生命環境科学研究科 教授 生物科学専攻	 渡邊 和男 Kazuo WATANABE 生命環境科学研究科 教授 生命産業科学専攻
--	--	---	--	--	--	---	--	---	---	---	--	---	---	--	---

陸域フィールド実習 (I)・(II)

陸域フィールド実習は、まさに陸の上、山の上で、生き物と環境との関係を学ぶ科目です。実習 (I) では、樹木や虫、哺乳類など様々な生物の多様性を観察します。目でみて触れて、ぜひ、自然の息吹を体験してください。実習 (II) では、筑波の里山を歩きながら、身近な自然の保護管理について学びます。どんな動物がいるかな? 一緒に調査してみましょう!



海域フィールド実習

海域フィールド実習では、潮間帯や底生生物の観察、漂着ゴミの採集などを行います。また、伊豆半島の国立公園の視察、自由研究として水槽レイアウトを通じた海の環境のモデル化を実施します。この実習は海の生き物や環境を実地で学び、普段見ることのできない海の中の生態系を体感することを目的としています。



自然遺産実習 (国内)

自然遺産実習は、世界自然遺産に登録された地域を訪問し、自然保護のための行政の取り組みや地域住民との協働などについて学びます。この数年は、小笠原諸島の父島を訪れ、外来種対策と固有種の保護などについて、環境省、林野庁、小笠原村の方のお話を伺うとともに、南島を訪れるエコツーリズムを体験しました。実習を通じて、自然遺産を守るための施策について、理論だけではなく実践的に学ぶことができます。



Project Practice in Natural Heritage (海外)

海外の自然遺産/複合遺産地域を訪ね、さまざまな角度から自然保護の知識や技術を学びます。2016 年はオーストラリアのタスマニア大学を訪れ、保護地域管理や野生生物管理の基礎を学ぶとともに、複合遺産として登録されているタスマニア原生地域の国立公園や近隣の保護地域を訪れ、国立公園のレンジャーやインタープリターからお話を伺います。実習中の使用言語は終始英語で、タスマニア大学の大学生とともに学ぶことにより、国際的な視野を広げ、国際交流の実践への自信につながります。



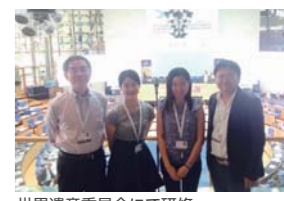
保護地域・野生生物管理実習 (I)・(II)

南アルプスを実習地とし、保護地域のあり方や野生動物管理の実態を体験を通して学ぶことを目的としています。実習 (I) では、南アルプス国立公園、エコパークなどの保護地域の制度上の違いや、利用実態を現地での体験を通して感じ、理解します。実習 (II) では、野生ジカの増加による高山植物群落の衰退を食い止める保全対策の現状や、里山での鳥獣被害とその対策について理解を深めます。



インターンシップ

自然保護寄附講座における「インターンシップ」とは、自然保護分野に関連する機関(行政、NGO、NPO 等)での実務体験を行うことです。その目的は、講義や実習で身に付けた高い専門知識および専門技術を、実際の自然保護関連分野の現場で、どのように役立てることができるかを実体験に基づき、考え行動できる人材を養成することにあります。本講座の趣旨として、国内外での自然保護の現場で活躍できる学生を育てることが挙げられます。そこで、本講座の履修学生を対象に、インターンシップへの費用支援を実施します。(支出基準は、つくばスカラシップ制度に準じます。)ただし、支援対象の団体および支援対象の学生は、選考の上決定します。



世界遺産委員会にて研修

【受入先機関例】

国際自然保護連合 (IUCN) スイス本部、環境省、日本野鳥の会、WWF、日本自然保護協会、NPO 法人いわきの森に親しむ会、一般社団法人くりこま自然学校、トヨタ白川郷自然学校、自然環境系民間会社ほか



雪の自然体験活動



COP13 参加 (メキシコ)



世界自然保護会議参加 (ハワイ)



エコツアー・自然体験補助活動



タイでのコウモリの調査活動

公開講座・シンポジウム

自然保護寄附講座では、講座の一環として、自然保護に関する一般向けの公開講座・シンポジウムを開催します。2016 年度は、「自然と文化をつなぐ アジア太平洋地域における自然と文化の連携に関する人材育成ワークショップ記念」に関する公開シンポジウムを開催しました。



海外留学

自然保護寄附講座は海外で活躍できる人材を育成する一環として、交流協定締結校などへの留学を勧めています。特に 2015・2016 年に、オーストラリアのタスマニア大学やディーキン大学との交流協定が結ばれ、各大学に年間 3 名相当の留学生交換を行うことが可能になりました。タスマニア大学の周囲は、州の約 20% を占める原生地がユネスコの複合遺産に登録されているように、自然豊かな環境とそれを生活の場とする社会構造が混在し、自然保護の理論と実践を学ぶことができます。また、海洋や南極へのアクセスを生かした研究も盛んです。ディーキン大学は様々なコースを持つ総合大学であり、世界遺産学に関わるコースも持っています。また、次の世界遺産とも目されるグレートオーシャンロードに隣接するキャンパスもあり、海洋科学などの分野も盛んです。



タスマニア大学メインキャンパス